

# 水産庁

プレスリリース

平成22年4月12日  
水産庁

## 第23次南極海鯨類捕獲調査(平成21年度)の結果について

本年度の南極海鯨類捕獲調査(西脇茂利団長(財団法人日本鯨類研究所))の結果についてお知らせします。

### 1. 調査船団の出港日

平成21年11月19日

### 2. 調査船団の入港日

調査母船	日新丸(8,044トン 小川知之船長以下128名) 平成22年4月12日(月曜日)東京港(東京都)
目視採集船	第二勇新丸(747トン 三浦敏行船長以下19名) 平成22年4月11日(日曜日)下関港(山口県) 勇新丸(720トン 佐々木安昭船長以下19名) 平成22年4月11日(日曜日)下関港(山口県)
目視専門船 (妨害予防船)	第二昭南丸(712トン 小宮博幸船長以下22名) 平成22年3月12日(金曜日)東京港(東京都) 第三勇新丸(742トン 廣瀬喜代治船長以下20名) 平成22年3月27日(土曜日)下関港(山口県)

### 3. 調査海域

南緯60度以南の南氷洋(東経35度以東、東経175度以西)

### 4. 捕獲頭数

クロミンククジラ506頭及びナガスクジラ1頭

### 5. 実施機関

財団法人日本鯨類研究所

### 6. 本年の調査の成果(速報)

発見された鯨類は、ヒゲクジラ亜目6種、ハクジラ亜目5種であった。多く見られた鯨種は、クロミンククジラ(986群2,242頭)、ザトウクジラ(603群1,187頭)、ナガスクジラ(56群189頭)。

捕獲調査のほか、海洋環境観測調査及び非致命的調査として、ザトウクジラ等の自然標識撮影(注1)及びバイオプシー標本採取等(注2)も行った。

(注1)外見上の特徴(色、ひれの形状、傷跡等)により鯨の個体識別ができるようにするため、発見された鯨を撮影するもの。

(注2)DNA等を解析するため、鯨の表皮の一部を採取するもの。

<捕獲調査により明らかになったこと>

クロミンククジラはナンキョクオキアミを主な餌としているが、今年度の調査では、水深の浅い海域でコオリオキアミやコオリイワシを捕食していた個体が多く見られた。クロミンククジラの海域による食性の違いを解明する上で、重要な情報を得ることができた。

クロミンククジラは調査海区によって性成熟組成に違いが見られ、性成熟している雄が多い海区や、性成熟している妊娠雌が多い海区があった。

採集されたすべての鯨から、鯨の年齢査定に必要な耳垢栓や、栄養状態・健康状態の判定に必要な脂皮厚、寄生虫の寄生状態など、数多くのデータや標本が得られた。これらの調査記録、データ及び採集標本は、今後、様々な分野の研究担当者に引き渡されて分析及び解析が行われ、鯨類資源に関する研究が進展することが期待される。研究成果については、国際捕鯨委員会や各分野の学会などで公表される予定。

#### <目視調査等の非致命的調査により明らかになったこと>

クロミンククジラは水深500m以浅の南極大陸近くの沿岸浅海域で発見された一方で、ザトウクジラは水深500m以浅では発見されなかった。目視調査により発見されたクロミンククジラとザトウクジラの発見分布は、重なる水域もあったが、調査海域内では両者は水深により棲み分けをしていた。

ザトウクジラは過去の調査結果と同様に、今次調査でも改めて資源の順調な回復ぶりが示された。今後はザトウクジラとクロミンククジラとの間の餌の競合関係や分布の変化について調査していくことで、近年の鯨類の資源動態の変動メカニズムを明らかにできると考えられる。

## 7. その他

今次調査においても、反捕鯨団体シー・シェパードによる妨害・追航により、31日間にわたり捕獲調査を中断せざるを得なかった。

### — お問い合わせ先 —

資源管理部遠洋課  
担当者: 捕鯨班 森、高屋  
代表: 03-3502-8111(内線6724)  
ダイヤルイン: 03-3502-2443  
FAX: 03-3591-5824

[ページトップへ](#)

Copyright:2007 Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries

〒100-8907 東京都千代田区霞が関1-2-1 電話:03-3502-8111(代表)

水産庁